

中小の労働生産性を高める人事施策②

若手確保へ「シン3K」

新型コロナウイルス禍による流通・消費の大変革により、物流が注目を浴びるようになりまし。IT(情報技術)やDX(デジタルトランスフォーメーション)と結び付いた物流テックも進化し、物流不動産は新規参入が相次いでいます。必要不可欠な生活インフラとして認識されるようになり、最近では物流のイメージも少しずつ変わってきています。大手物流会社のCM効果、アメニティーが充実し、働く人を中心に設計された先進物流不動産など。しかし中小の現場は、いまだ「きつい、汚い、危険」の「3K」のイメージから完全には

脱却できていません。イソーコグループが推進する物流不動産ビジネスは、あくまでも物流がベースになります。物流の知識、ノウハウがソリューションの武器になるのですが、その物流が「3K」と呼ばれているようでは、その未来に明るさを感じる人が増えることはないでしょう。当社グループが目指す「物流不動産ビジネスの業界化」も、遠い話になって

しまいます。そこで私たちは、物流DXを活用して労働生産性を高めるとともに、従来の物流のイメージをも刷新しようとしています。それが「かっこいい・稼げる・感動する」の「シン3K」です。URNAL(ジャーナル)と題したコラムコーナーで、各メンバーが仕事への想いや日々の奮闘をつづっています。当社グループでは、物流、不動産、建築、IT、金融、それぞれの業界の垣根を越えた複合提案ができる「物流不動産ユーザーティータイププレイヤー」を育成するため、配属を一つに固定せず、「物流(運送・物流加工)×不動産営業」「不動産管理×建築」というように、

各々複数の業務を担当しています。これを読むことで、入社したらどのような働き方をすることになるのか、自分の成長イメージをつかめます。インスタグラムやフェイスブックなどのSNS(交流サイト)も、若いメンバーの感性で発信しています。こうした取り組みは、書き手である若手社員にもメリットがあります。発信を通じて自分の成長が感じられ、やがていや充足感につながるのです。普段から文章を書くことで、筆力を養う効果も期待できます。コロナ禍でEC(電子商取引)などの利用拡大もあり、物流が身近なものになったこともありま。若くは彼らの自主性から生まれた文章が共感を呼び、トレンド入りしたコンテンツも少なくありません。最近では、女性の応募も増え、若者が物流を基軸とした仕事に取り組み姿が浸透しつつあるのを感じています。

最後は「感動する」です。物流不動産ビジネスは、「物流×不動産」「物流×金融」「物流×IT」など、異なる業務を掛け合わせるビジネスですから、それによって広がるソリューションを何よりの強みとしています。今では空いた倉庫を、オフィスやスタジオにする「倉庫リノベーション」や、撮影やイベントなどに一時貸しする「レンタルソーコ」など、様々な空間の活用策が実現しています。

かっこいい・稼げる・感動

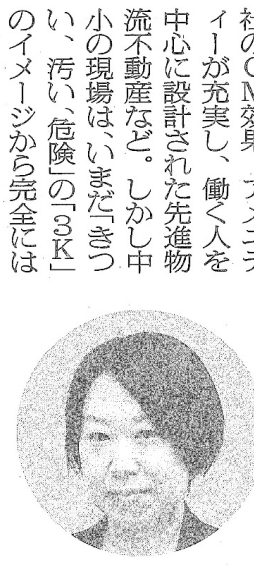
まずは「かっこいい」。若者にとって将来に希望が持てる業界にすることが一番だと考えています。物流業界に憧れを持つ若い人を増やそうと、就活を控えた学生をターゲットに、様々な発信をしています。担当するのは、学生と感性の近い入社1~3年目の若いメンバーが中心。グループの人財育成を担うイソーコドットコムのコポレートサイトでは、「JO

次は「稼げる」です。「オフエンス型」の不動産業界ではインセンティブ制度が導入されているのが一般的ですが、ミスをしないうるべき「ディフェンス型」の物流業界では、インセンティブの仕組みがありません。物流不動産ビジネスでは、物流営業にもインセンティブ制度を導入しようとしています。インセンティブのバリエーションを増やすことはモチベーションアップに

つながり、若い人にとって夢のある魅力的な業界をつくりたい。

倉庫が再生を遂げ、活用され、オーナーはもちろ、そこを利用する人にも笑顔が広がる。そんな姿を見ていると、自然とうれしい気持ちが出てきます。倉庫の可能性の大きさには、感動を覚えるものです。

この「シン3K」。物流不動産ビジネスの業界化、そして物流・倉庫業界の活性化のためにも、どんどん広げていきたいと考えています。



イソーコ総合研究所

社長 出村 亜希子

イソーコ総合研究所

イソーコ総合研究所

イソーコ総合研究所

イソーコ総合研究所